

3. 評価実施方法

本評価は、地域結集型研究開発プログラムについて、平成18年度に事業開始した2地域における当該事業を対象として、科学技術振興機構に設置されたPO及び地域振興事業評価アドバイザーボードによって行われた中間評価である。

評価作業は、以下の通りである。まず、PO、地域振興事業評価アドバイザーボード、アドバイザーおよび専門アドバイザーが各事業実施地域から提出された中間評価自己報告書の査読を行い、その結果を査読調査票に記入し、それを基に評価対象地域の現地調査を行った。現地調査の結果は現地調査報告書としてまとめられ、地域振興事業評価アドバイザーボードに提出された。

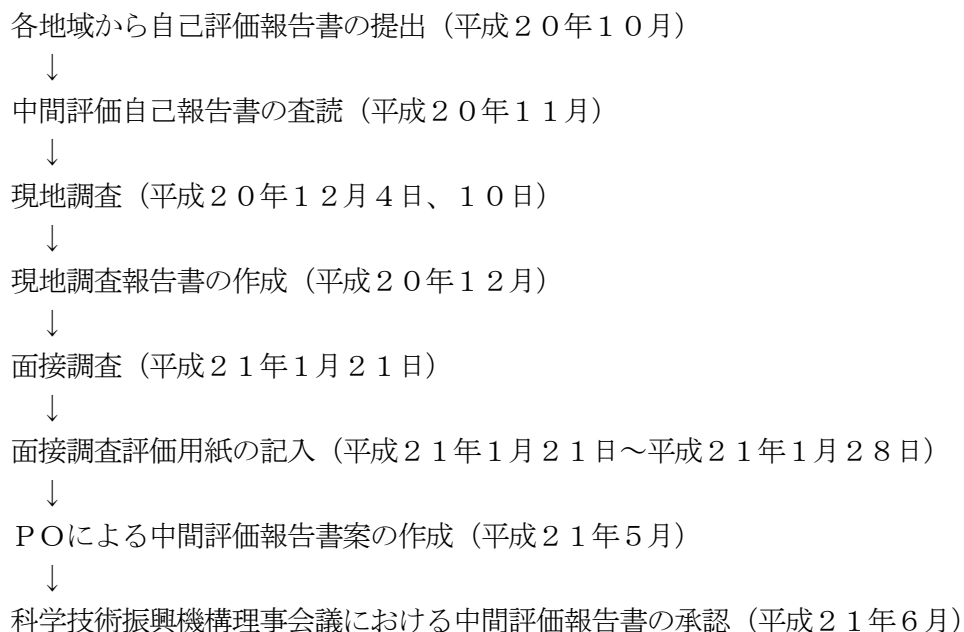
地域振興事業評価アドバイザーボードにおいては、まずPO、担当アドバイザーより現地調査報告書の説明がなされ、それを踏まえた上で、事業進捗状況および今後の見通し、研究開発進捗状況および今後の見通し等について面接調査が行われた。アドバイザーは面接調査結果を評価用紙に記入し、それを参考にPOが本中間評価報告書を作成した。

中間評価の目的は、課題毎に事業の進捗状況や研究成果を把握し、これを基に適切な予算配分、研究計画の見直しを行う等により、事業運営の改善に資することである。

評価は、以下の観点からおこなった。

- ①事業進捗状況及び今後の見通し
- ②研究開発進捗状況及び今後の見通し
- ③成果移転に向けた活動状況及び今後の見通し
- ④都道府県等の支援状況及び今後の見通し

<中間評価のプロセス>





評価報告書の公表（平成21年6月）